

令和7年度 学校経営計画書

岡山県立岡山芳泉高等学校

1 建学の精神

気宇広大で包容力の大きな人間の育成

「高等学校教育において最も重要なことは、どのような教育が知・情・意の面や体力の面でなされ、一人一人がいかに立派に育つかということである。えてして小さく固まりそうな生徒の心を少しでも大きく、のびのびと育てていきたい。こういう国際的な時代でもあり、気宇広大で包容力の大きな人間になってもらいたい。」（大原利貞 初代校長の本校創立に当たってのことばから）

2 校訓

鍛練 節度 創造

3 スクール・ミッション

幅広い知識と教養を培う普通科高校として、将来の生き方について考えさせ、自ら進路を切り拓く力や生涯学び続ける意欲を高める教育活動を通して、地域社会や国際社会で活躍し、その発展に貢献する人材の育成を目指す。

4 スクール・ポリシー

（1）育てたい生徒像

- 公共心や規範意識等を身につけ、情操豊かで、敬愛の精神と礼節を重んじる品格のある生徒
- 多様な価値観を受け入れ、グローバルな視点と広い心を持ち、他者と協働しながら持続可能な社会を創造しようとする生徒
- 高い志を持ち、自ら目標を設定し、生涯にわたり学ぶ姿勢を身につけ、自己鍛練を行うことのできる生徒
- 積極的に新しい知識を取り入れ、探究心を身につけ、課題解決に向けた実践力を持った生徒
- 多様な体験を積むことで自分に自信をもち、公正な判断力を身につけ、何事にも挑戦する生徒

（2）学びの内容・方法

- 様々な場面での経験を振り返り、より豊かな人生を目指して主体的に行動する力の育成
 - ・保護者・地域等との連携による体験的な活動の充実
 - ・生徒自身が自らの成長を振り返るポートフォリオの活用
- 対話や議論を通じ、思考を深め、多様な人々と協働する力の育成
 - ・教科スタンダードに基づくアクティブ・ラーニング型授業の実施と深い学びの実現
 - ・生徒が主体的に企画・運営する教育活動の推進
- 先人の考えを理解し、社会との関わりを意識して新しいものを創造する力の育成
 - ・各教科、総合的な探究の時間、特別活動などにおける、社会との関わりを意識した教育活動
 - ・収集した情報をもとに事柄の本質を見極め多面的・多角的に考察・思考する態度の育成
 - ・多様な選択科目や学習到達度別授業、ICTの活用、個に応じた最適な学習指導

（3）求める生徒像

- 広く社会に目を向けて、進路実現のために主体的・協働的に学習する生徒
- 周囲と進んでコミュニケーションを図り、他を思いやりながら行動する生徒
- 生徒会活動や部活動等に積極的に取り組んだ経験を生かし、「さらなる高み」を目指す生徒

5 現状分析

- 国際バカロレアの教育手法の研究に基づく授業改善を進め、主体的に学び深く思考するための資質・能力を伸ばしている。
- 多様な入試制度に対応する進路指導体制で生徒の進路実現を図り、県下トップクラスの合格実績を上げている。
- 広範囲から通学可能な岡山市南部に位置し、岡山学区南部の進学拠点校として「伸ばす芳泉」と高く評価されている。
- 部活動や生徒会活動も活発で、高い次元で文武両道を果たし、全国レベルの実績を誇る部活動もある。
- グローバル人材育成や高大接続改革など新しい時代への変革に取り組み、外部人材の活用や外部機関との連携を深め専門性と指導力を高めている。
- ICT機器が整備されたことで校務のデジタル化を進め、教育活動全般への効果的な活用が進んでいる。
- PTA、同窓会の学校運営に対する理解があり、様々な活動への協力が得られる。
- 素直で真面目な生徒が多いので、体験的な活動に積極的に参加することで主体性を発揮し、自身の成長が実感できる場の設定が求められる。
- 必ずしも文理にとらわれず、適正な進路目標の設定とキャリア開発の視点から、将来に向けて自己を見つめ高い志を持てるよう意識付けをする必要がある。
- 広報活動の一層の充実を進めるとともに、地域との連携・協働による多様な経験を取り入れた教育活動の展開が求められる。
- 働き方改革の視点に基づく校内組織や指導体制等の整備・システム化が必要である。
- 探究学習と各教科の横断的カリキュラム開発を継続し、持続可能な社会の創造に寄与する人材育成が求められる。
- 端末機器と紙媒体の使用を効果的に使い分ける一体的な指導のあり方を研究し、アクティブ・ラーニング型の授業実践を推進する必要がある。
- スクール・カウンセラー等の外部専門機関と連携しながら、多様な生徒への教育相談体制及び保護者への支援が求められる。

6 令和7年度重点目標

- ① 資質・能力を育成する授業実践
 - ・各教科における探究的思考の育成
 - ・生成A I の活用に関する研究・実践
 - ・主体的に学習に取り組む態度の育成
- ② D Xハイスクール事業（2年目）の推進
 - ・総合的な探究の時間のカリキュラム推進
 - ・外部コンテスト等への積極的参加、地域への還元、授業外での活用
- ③ 安全・安心で快適な学校づくり
 - ・交通ルールの遵守と生活マナーの向上
 - ・校内美化の向上
 - ・教育相談の充実
- ④ 外部組織との交流・連携
 - ・大学、企業、公民館、小中学校等との交流・連携の深化
- ⑤ 効果的な広報活動と情報発信
 - ・学校案内・オープンスクール・学校説明会等の充実
 - ・ウェブサイト、ブログ、SNSによる情報発信の活性化
- ⑥ 教職員の働き方改革の推進
 - ・生成A I 等を活用した業務の効率化
 - ・時間外業務の削減につながる業務の見直しと平準化

7 教科で育成したい資質・能力

教 科	育成したい資質・能力
国語科	①課題設定や探究方法の創造を行うために必要な、論理的思考の基礎力 ◇他者の考えを理解する力 ◇自分の考えを表現する力 ◇自分の考えの道筋を振り返り、他の作品やことがらに応用する力 ②協議に必要なコミュニケーションの基礎力 ◇共有している認識を確認し、応用し発展させる力 ◇個人の知識を他者と共有し認める力
地 歴 公民科	①多面的・多角的に考え、自分なりの考えを作っていく力 ②能動的に課題に取り組み、協働的に考えを進める力 ③学んだことを活用し、解決策を考える力
数学科	①課題解決のために必要な実践力 ◇環境、状況を把握し、プライオリティを意識してセルフコントロールする力 ◇前向きに取り組める自己指導力 ②問題解決に必要なコミュニケーションの基礎力 ◇自分の考え、根拠を説明する力 ◇他者の考えを理解する力 ③課題解決のために必要な論理的思考力。 ◇教科書の公式や解法を先人の取組として正しく理解する力（道具） ◇目的、視点、見通し、手法のスマールステップを理解する力（使い方）
理 科	①課題設定や探究方法の創造を行うために必要な、論理的思考の基礎力 ◇教科書を先人の取り組みとして正しく理解する力 ◇目的、視点、仮説、手法のスマールステップを理解する力 ②協議に必要なコミュニケーションの基礎力 ◇実験の「仮説」「考察」をグループで話し合う力 ◇根拠を示す力
英語科	①主体的・自律的なコミュニケーションをするために様々な場面で英語に触れるなど、自立した学習態度・方法を身に付け、4技能のバランスの取れた力を育成する。 ②多様な人々と協働するため、英語による対話や議論などのコミュニケーション活動を通じて、他者の意見を理解したり、自分の意見を相手に伝える力を育成する。 ③他者や社会と関わられるようにするために、主体的・対話的で協働的な学びを通じて自分の考えを深化させ、集団に貢献できる力を育成する。
保 健 体育科	生涯にわたり健康で豊かなライフスタイルを実現するための基礎を養う。 保健：現代社会の健康課題や自らのライフステージにおける健康・安全について、主体的に学び、健康の保持増進に向けて意思決定・行動選択ができる資質と能力を養う。 体育：運動やスポーツを仲間と楽しく協働しながら運動技能の向上と体力の向上を図り、生涯にわたって合理的・計画的にスポーツライフを継続できる力を養う。

教 科	育成したい資質・能力
芸術科	<p>①生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。 単に様々な活動を数多く体験するだけではなく、多様な観点から芸術に対して主体的にかかわっていくことを基本としていく。</p> <p>②感性を高め、能力を伸ばす。 心の教育に関わっている教科という認識のもと、技術的な面の伸長を図るだけではなく、芸術に対するとらえ方や考え方を深化させ、自ら表現し、創造的な能力を高める。</p> <p>③芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。 一定の材料・技術・方法・様式などによって美を追究・表現しようとする活動など精神の働きによって作りだされた有形・無形の成果の総体に対する理解を深め、愛着をもち、それらを尊重する態度の育成を重視する。</p>
家庭科	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>①コミュニケーションを通して、意見の共有や議論ができる力</p> <p>②生涯を見通して生活の課題を解決する力 ◇知識や概念・スキルを統合して活用・応用ができる（使いこなす・活かす） ◇教科と生活を結びつけて考え、生活の中で実践し評価・改善することができる</p> <p>③社会に貢献しようとする力</p>
情報科	<p>①情報活用の実践力 ◇課題や目的に適した情報手段は何かを考え、主体的に選ぶことができる力</p> <p>②情報の科学的理解 ◇情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解し、特性を踏まえて情報手段を適切に選択し活用する力</p> <p>③情報社会に参画する態度 ◇社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響の理解 ◇望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度</p>